

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	EB204
講義コード	1EC000700
講義名	計量経済学
担当者名	谷合 弘行
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	B/E/L
備考	

科目的趣旨	経済学の理論を経済データで定量的に検証する、あるいは経済データを経済理論に基づいて定量的に分析する方法について講義する科目である。この科目的目的は経済理論・政策科目で履修する経済理論を経済データで実証できるようになり、卒業論文や経済分析レポートのための分析ができるようになることである。前半では、確率論と統計学の基礎及び古典的仮定の下での回帰分析について講義する。また回帰分析にはPCを使用する。後半では、古典的仮定が満たされないときに起きた問題を解説し、その発見と対策の方法についても講義する。
授業の内容	本講義では基礎的な確率論・統計学の知識は所与として、それを表計算ソフトExcelや統計処理ソフトRを用いて復習することから始めて、経済現象を定量的に説明する様々な考え方を学びます。そこで中心的な役割を担うのが前半で扱う多変量回帰分析と、そこへ時間の概念を入れた後半の時系列解析です。授業内容が進むにつれてExcelでの分析には限界があることが理解されるでしょうから、初めからRでの手法を並行して学んで行くことで移行を容易にします。
科目的到達目標 (理解のレベル)	本講義では、以下の能力の基礎を身に付けることを目指します。 1. ExcelやRを用いて、データを自ら効率的かつ適切に整理・分析することができる。 2. 構造的な(クロスセクションナルな)データについて、その依存関係を定量的に表現し、それに基づいた論理的な説明や判断ができる。 3. 時系列データについて、時間的な依存構造を見出して、現在までのデータに基づいた将来の予測値を提供できる。
授業形態	講義
授業方法	教員によるスライドの提示や板書を用いた説明とともに、配布する実行ファイルの動作をPC教室において確認しながら進めて行きます。また、配布されたファイルを持ち帰って自宅においても自らのPC状でその動作を復習することができます。Rは無料で利用可能であり、そのインストールなどについては第1回の授業で説明します。
授業計画	【第1回】ExcelとRによる統計学の復習(記述統計) ExcelやRといったソフトを導入し、手元のデータをそれらに取り込む方法を習得します。 【第2回】確率分布と乱数の発生、シミュレーション 種々の確率分布について復習し、そこからの乱数を発生させる方法について学びます。 【第3回】標本分布と区間推定 乱数を用いて標本分布の概念を理解するとともに、区間推定についてもExcel, Rで行えるようになります。 【第4回】仮説検定 仮説検定の概念について復習し、検定をExcel, Rで行えるようになります。 【第5回】標本数が少ない場合での推測と二標本問題 より現実的な仮定の下での推定・検定の手法や、複数の母集団を比較する方法について学びます。 【第6回】分散分析(1) データの変動を、モデルによって説明される部分とそれ以外に分解することや、モデルの妥当性を診断することについて学びます。 【第7回】分散分析(2) 変数間の依存関係をより強めたケースを学び、後の重回帰分析との関連も確認します。 【第8回】単回帰分析 2つの量的変数間の関連を説明するモデルとして回帰モデルの推定を行い、分散分析を用いてその説明力を評価します。 【第9回】重回帰分析または多変量回帰(1) 説明変数の数を増やした回帰モデルについて学び、単回帰分析では見られなかった注意点などについて解説します。 【第10回】重回帰分析または多変量回帰(2) 不要な説明変数の特定や構造変化の有無を検定する手法について学びます。 【第11回】重回帰分析または多変量回帰(3) ダミー変数と呼ばれるものを導入して、質的な説明変数を取り込んだモデルについて学びます。 【第12回】回帰分析に関する振り返り 【第13回】不均一分散 古典的回帰モデルの仮定を満たさないデータとして、誤差項の分散が一定でないケースへの対策を学びます。 【第14回】構造方程式モデル(SEM) SEMもしくは同次方程式体系と呼ばれる、変数間の相互依存が推定を困難にしているケースへの対策を学びます。 【第15回】カテゴリー変数のモデル化 一般化線形モデルと呼ばれるものの一例として、被説明変数がカテゴリー変数である場合に用いられる回帰モデルについて解説します。 【第16回】切断・検閲を受けたデータの分析 直接観測することができない潜在的なデータが存在するときのモデルの推定法や、異なるモデル化について学びます。 【第17回】パネルデータ

後に学ぶ多変量時系列の特別な場合として、前半で学んだ多変量データを時間に沿って蓄積したものについて、個人や時点に特有な振る舞いの有無を調べます。

【第1回】自己相関と時系列データの基礎

単一の変数に関する過去の値からの依存について、自己相関や定常性、ホワイトノイズといった概念について学びます。

【第19回】トレンドの除去と季節調整

グラフ上で目に見えるトレンドは確定的なものであり、それらは今回学ぶ手法によって予め除去されます。以降では、見えない依存関係を検出し、それを予測に利用して行きます。

【第20回】自己回帰モデル(ARモデル)

重回帰モデルにおいて、説明変数として被説明変数の過去の値を用いるものです。ここでは重回帰モデルとは異なる推測の手法が必要になることを見ます。

【第21回】移動平均モデル(MAモデル)と ARMA モデル

高次の AR モデルをより簡便に表現する手法として MA モデルを導入し、両者の混合である ARMA モデルを学びます。

【第22回】多変量時系列解析

1変数の時系列解析から多変数へと進めることにより、変数間で明らかにできることについて学びます。これにはある種の因果性の検定などが含まれます。

【第23回】非定常モデルと ARIMA モデル

定常性の無いデータについても、解析する対象を吟味し直すことで、定常データの分析から示唆を得ることができます。

【第24回】条件付き分散不均一性と GARCH モデル

金融データなどでは、分散の一時的大きさが持続する傾向が見られますが、これを上手く説明する定常モデルとして ARCH モデルやその一般化について学びます。

【第25回】ARIMA モデルの様々な拡張

確率的な季節的依存を明らかにする SARIMA モデル、長期的な依存を説明する FARIMA モデル、閾値を境にモデル変化を許した TAR モデルなどを解説します。

【第26回】時系列解析に関する振り返り

事前・事後学修	事前学修では、予定されている講義内容から想定される設定について、それが適用できそうな身近な分析対象などについて考えておくこと。自身で実際にそれが適用可能であるかないかという吟味をしながら受講することでモデルの意味をより深く理解できます。 事後学修では、授業ノートや出題された課題を見直すこと。もし、教科書や指定図書が手元にあれば、練習問題に自主的に取り組むこと。講義時間外の課題については各自しっかりと取り組み、授業に臨むこと。
成績評価方法・基準	基本的には次回までの宿題としての小テストを毎回出題し、全体の中で2~3回ほど内容確認の課題を出す予定です。詳細については第1回の講義時に説明します。 小テスト 40%、課題 60%
教科書・指定図書	教科書は使用せず、以下に指定図書と参考文献を示します。 ・浅野哲・中村二朗『計量経済学 第2版』有斐閣 ・秋山裕『Rによる計量経済学 第2版』オーム社 ・福地純一郎・伊藤有希『Rによる計量経済分析』朝倉書店 ・藤澤洋徳『確率と統計』朝倉書店
履修上の留意点	特になし。
更新日	2022/3/16

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	EB203
講義コード	IEC000900
講義名	経済成長論
担当者名	申 寅容
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	B/E/L
備考	

科目的趣旨	経済成長は豊かさをもたらす重要な要素である。世界各国の所得水準を比較してみると、日本、アメリカのように豊かな国がある一方、貧しい国もある。豊かな国と貧しい国の1人当たりの所得や生活水準の格差は非常に大きい。この格差は経済学者の関心を引き起こし、近年広い範囲で研究が行われてきた。経済成長論では、豊かな国はどうして豊かで貧しい国はどうして貧しいのか、貧しい国は永遠に貧しいまま残されてしまうのか、どうすれば貧しい国は豊かになれるのか、などについて探求する。
授業の内容	経済成長と経済発展の基礎データを利用して国家間の成長の差異について学ぶ。また、経済成長の主要な決定要因や経済成長のためのさまざまな経済政策などについて理論的かつ実証的に学ぶ。理論モデルとして、ソローモデル、内生的成長モデルなどを取り扱う。かつ、実証分析のため、1人当たりGDP、資本ストック、投資、人口、人的資本、所得不平等度などのデータを用いる。また、経済成長に関する最新の論文や書籍などを紹介する予定である。Kumar and Russel (2002), Kruger (2003), Shin (2020), クルーグマン (1997)などを予定している。参考文献の詳細については、教科書・指定図書欄を参照のこと。
科目的到達目標 (理解のレベル)	経済成長と経済発展に関する様々な問題を発見し、解決するために必要な経済学の基本的な知識と分析ツールを身につける。所得と成長の国別格差について理解し、その格差をもたらす生産要素の蓄積や生産性の格差などについて理解する。さらに、その生産要素の蓄積と生産性の格差の底にある、より深い決定要因について理解する。国家間の違いを理解し、国際社会の一員として、直面する課題に積極的に取り組み、解決する能力を身につける。
授業形態	講義
授業方法	通常は講師による講義形式での授業を行う。授業中に講師から受講者へ質問することが多い。対面授業(学生と教員が教室で向き合う授業)を原則とするが、新型コロナウイルスの感染状況、教育効果、ティーチングスキルの向上などを考慮した上で、zoomなどを利用したオンライン授業やハイブリッド授業を複数回取り入れることを予定している。オンライン授業やハイブリッド授業のスケジュールについてはmanabaに1週間前までに通知する。
授業計画	<p>【第1回】イントロダクション 内容:ガイダンス、経済成長論のオーバービュー</p> <p>【第2回】経済成長に関する諸事実 内容:所得水準の諸国間格差、各国間の所得成長率の相違、成長率、年平均成長率</p> <p>【第3回】購買力平価 内容:一物一価、為替レートと購買力平価、貿易財と非貿易財、バラッサ・サミュエルソン効果</p> <p>【第4回】分析のためのフレームワーク 内容:散布図と相関、因果関係</p> <p>【第5回】ソロー・モデル 内容:資本の性質、生産関数、規模に関して収穫一定、限界生産物、資本の限界生産物遞減、資本分配率</p> <p>【第6回】移行経路と定常状態 内容:資本蓄積方程式、減価償却、成長率</p> <p>【第7回】ソロー・モデルの応用 内容:投資率の変化、投資と貯蓄の関係</p> <p>【第8回】黄金律 内容:消費の最大化</p> <p>【第9回】マルサス・モデル 内容:マルサス罠、マルサス的均衡から脱出、マルサス・モデルの崩壊</p> <p>【第10回】人口と経済成長 内容:ソロー・モデルによる人口成長、人口成長の変化と成長</p> <p>【第11回】人口転換 内容:死亡率、死亡転換、死亡率の減少、出生率、出生転換、出生率の減少、後発性の利益、コンプレス転換、早期転換、多産多死、多産少死、少産少死、人口転換の内生化</p> <p>【第12回】将来の人口トレンド 内容:人口の予測、死亡率の予測、出生率の予測、人口モメンタム</p> <p>【第13回】高齢化と経済成長 内容:人口変化の経済的帰結、人口の高齢化、構成効果</p> <p>【第14回】人的資本(1) 基本モデル 内容:健康という形態の人的資本、教育という形態の人的資本、教育の収益</p> <p>【第15回】人的資本(2) 応用 内容:人的資本の配分比率、教育の質、外部効果</p>

	<p>【第16回】収束理論：絶対収束と条件収束 内容: 定常状態、移行経路、収束、収束論争、絶対収束、条件収束</p> <p>【第17回】発展会計 内容: 生産性水準の格差、生産性格差の測定</p> <p>【第18回】成長会計 内容: 生産性の伸び率の格差、ソローラー残差、全要素生産性</p> <p>【第19回】経済成長における技術の役割(1) 1国モデルのオーバービュー 内容: 技術進歩の性質、技術移転、技術の創出と成長の関係をモデル化、モデルの枠組みと諸前提</p> <p>【第20回】経済成長における技術の役割(2) 1国モデルの応用 内容: 労働のR&Dへの移動効果、短期と長期</p> <p>【第21回】絏済成長における技術の役割(3) 2国モデルのオーバービュー 内容: 技術リーダーと技術フォロワー、モデルの枠組みと諸前提、技術開発費用</p> <p>【第22回】絏済成長における技術の役割(4) 2国モデルの応用 内容: 技術リーダー国のR&Dの増加、技術フォロワー国のR&Dの増加</p> <p>【第23回】内生的成長モデル 内容: モデルの枠組みと諸前提、一般的なケース</p> <p>【第24回】最先端技術 内容: 技術変化の速度、技術の生産関数、差異のある技術進歩</p> <p>【第25回】効率性 内容: 生産性分解、効率性の差、非効率性の形態</p> <p>【第26回】包絡線分析 内容: 包絡線分析、要因分解</p>
事前・事後学修	<ol style="list-style-type: none"> 授業の前に前回の授業内容やmanabaにあるマテリアル等を確認し、授業に臨むこと。 課題がある場合は、事前にmanabaに掲載するので、各自で取り組むこと。 課題は成績評価方法・基準の欄に示す通り、評価の10パーセントを占める。 課題について、分からぬことがある場合は、授業中に質問、またはメールで問い合わせること。問い合わせの解説は課題提出の締め切り後に使う。 余裕のある学生は教科書・指定図書の欄にある参考文献を読んでみること。
成績評価方法・基準	<ol style="list-style-type: none"> 経済成長論の基礎的な内容を理解しているかどうかを評価する。 総合試験(80%)、課題(10%)、平常点(10%)で評価する。 総合試験は1回のみ実施する。やむを得ず試験に欠席する場合は必要な手続きをとってください。 総合試験はオンラインで実施する予定である。 試験問題は選択式と記述式を併用する予定である。 試験問題や課題については、受講生の理解度や授業の進捗状況などを考慮し、出題する予定である。
教科書・指定図書	<p>参考文献</p> <p>Weil, D., 2012, Economic Growth, Prentice Hall.</p> <p>Kumar, S. and Russell, R., 2002, Technological Change, Technological Catch-up, and Capital Deepening: Relative Contributions to Growth and Convergence, American Economic Review, Vol. 92, No. 3, pp.527–548.</p> <p>Kruger, J., 2003, The Global Trends of Total Factor Productivity: Evidence from the Nonparametric Malmquist Index Approach, Oxford Economic Papers, Vol.55, No. 2, pp.265–286.</p> <p>Shin, I., 2020, Income inequality and economic growth, Economic Modelling, Vol. 29, Issue 5, pp. 2049–2057</p> <p>クルーグマン, P., 1997, クルーグマンの 良い経済学 悪い経済学, 日本経済新聞出版</p>
履修上の留意点	ミクロ経済学、マクロ経済学、経済学基礎数学の知識が必要である。 グラフによる説明が多い、グラフを見て理解できること。
更新日	2022/3/16

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	EC208
講義コード	1ED000200
講義名	日本経済論
担当者名	茨木 秀行
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	B/E/L/I/C
備考	実務経験のある教員による授業科目である。

科目的趣旨	日本経済全般の主要な部分について、検討を加える。近代の日本経済の発展の歴史を踏まえ、主として第二次大戦後の復興から高度成長を経て安定成長、低成長、継続的なデフレ傾向へと変化する過程を理解する。個別の分野にとらわれることなく、こうした中長期的な日本経済の推移、特徴及び課題を検討し、理解することによって、当面する問題とその解決策、今後の方向性を把握することも可能となる。
授業の内容	この授業では、日本経済の様々な分野における基本的な仕組みや事実関係を把握し、現実の経済社会や経済政策が直面している課題について理解を深めることに重点を置いて学習を行う。具体的な内容としては、まず、短期的な景気変動や物価動向、長期的な経済成長などマクロ経済の動向について、基本的な考え方やこれまでの動向について学習する。その上で、日本の産業構造の変化、貿易・投資を通じた企業活動のグローバル化、地球温暖化問題への対応など各論について、主要なポイントを学習する。さらに、人口の少子高齢化や所得格差などの視点を踏まえ、年金・医療・介護などの社会保障、財政・税制の所得分配機能や労働市場のあり方について、その仕組みや課題について学習する。
科目的到達目標 (理解のレベル)	日本のマクロ経済動向や産業の動向、及び主要な経済関連分野における政策課題を理解するための基本的な知識や視点を身に付ける。あわせて、経済に関する基本的な統計データ・資料の見方に馴れるとともに、日々のニュースや新聞・雑誌等の経済関連記事の内容を適切に理解し評価できる能力を身に付ける。これらの習得により、日本経済の課題について、問題の所在や解決策の方向性について、自分の意見を構築する能力を身に付ける。
授業形態	講義
授業方法	特段の事情がなければ、基本的に講義形式で授業を行う。授業スライドに基づき、各回で取り上げる課題について、基礎的な知識の解説、現状・動向・制度についての説明、関連する経済統計データや資料の見方の指導を行うとともに、現在直面している課題について、その背景や考え方を説明する。毎回の講義の最後に、質疑応答時間を設けるとともに、授業の理解度を測るために簡単な課題を課す。期末には学期全体を総括した復習と、理解が不足している点についての補足を行う。
授業計画	【第1回】授業の進め方や授業を受けるにあたってのガイダンス、日本経済の課題 【第2回】GDP統計からみた日本経済: GDP統計の概要、各主体別にみた経済活動 【第3回】景気変動について: 景気変動の要因、主な景気循環の特徴 【第4回】景気変動の読み方: 景気判断・予測、経済指標の見方 【第5回】経済対策について: 財政の経済安定化機能 【第6回】金融について: 金融の仕組みと機能、各経済主体の資金過不足 【第7回】デフレ脱却: 物価の動向、デフレ脱却に向けた取組 【第8回】経済成長について①: 経済成長のメカニズム、戦後の経済成長の推移 【第9回】経済成長について②: バブル崩壊後の経済低迷とその背景、今後の展望 【第10回】日本の産業構造: 日本の産業構造の変化、産業構造転換のメカニズム 【第11回】日本企業の特徴: 日本企業の特徴とダイナミズム 【第12回】経済のデジタル化: 経済のデジタル化の動きと経済への影響 【第13回】総括: 学習内容の振り返りと質疑応答 【第14回】企業活動のグローバル化: 貿易、海外投資・生産、貿易投資の自由化 【第15回】国際収支と為替レート: 国際収支・為替レートの動向、経済への影響 【第16回】地球温暖化と経済①: 地球温暖化とその影響、エネルギー消費の現状 【第17回】地球温暖化と経済②: 脱炭素化に向けた取組と経済への影響 【第18回】少子化・高齢化の現状と課題: 人口動態の変化、少子化の背景 【第19回】所得格差・所得格差の推移とその背景、課題 【第20回】財政の所得再分配機能: 社会保障給付、税制 【第21回】社会保障の仕組み①: 年金 【第22回】社会保障の仕組み②: 医療・介護 【第23回】日本の労働市場①: 雇用動向、賃金動向、日本の雇用の特徴 【第24回】日本の労働市場②: 女性・高齢者の労働参加、働き方改革

	<p>【第25回】人的資本投資:教育・訓練等の現状と課題</p> <p>【第26回】総括:学習内容の振り返りと質疑応答</p>
事前・事後学修	<p>事前学習:事前に授業スライドおよび関連資料に目を通し、疑問点等を整理しておくこと。また、日ごろから、ニュースや新聞・雑誌等の経済記事に接し、経済の最近の動向を把握するよう努めること。</p> <p>事後学習:毎回の講義の最後で課題を出すので、各自で取り組み、期日までに提出すること。毎回の講義の内容については、参考文献等も活用しながら、各自でノートを作成するなど、整理を行うこと。</p>
成績評価方法・基準	毎回の講義で出される課題の提出など平常点50%、前期・後期の各期末テスト50% ただし、課題の提出がほとんどなされない場合には、期末テストの成績によらず、成績評価の対象とならない場合がある。
教科書・指定図書	<p>教科書、指定図書は特に指定しないが、参考文献として、下記の図書を適宜参照されたい。</p> <p>大守隆編「日本経済読本第22版」東洋経済新報社、2021年 小峰隆夫、村田啓子「最新日本経済入門第6版」日本評論社、2020年 内閣府「経済財政白書」各年版 https://www5.cao.go.jp/keizai3/whitepaper.html</p>
履修上の留意点	授業スライドの閲覧や毎回の課題提出等のためには、パソコンやタブレット端末などを用意することが望ましい この講義は、経済学の初学者でも履修可能なように構成されているが、講義の内容には、基礎的なマクロ経済学やミクロ経済学の考え方とその応用が含まれる。
更新日	2022/3/16

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	EC201
講義コード	1ED000300
講義名	金融論
担当者名	加藤 凉
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	B/E/L
備考	実務経験のある教員による授業科目である。

科目的趣旨	日本をはじめアジア諸国では、1997年夏のタイの通貨危機以来、金融システム改革が急速に進んでいる。本講義では、金融不安定性理論を中心に、アジアの金融危機・経済危機とシステム改革の関係を広い角度から考察すること目的としている。アジア諸国における金融システムの内生的進化・発展のメカニズムを理解するとともに、金融自由化と金融システム改革の関係を理論的・実証的に検討していく予定である。
授業の内容	本科目では、金融論をはじめて習う初学者を対象に、金融仲介と金融市场についての基礎的な知識と理論を学習する。まず、金利や割引現在価値の概念を理解したうえで、年度前半では主に金融市场(直接金融)、後半で主に金融システム(間接金融)について、制度と理論の両面から学習する。具体的には、前半で①貨幣とインフレの意味、②債券市場、③為替市場、④株式市場について学び、後半では、⑤銀行の役割と信用創造、⑥金融システムの機能不全としての金融危機・経済危機、その対策としての⑦金融規制について、順を追って学習を進めていく。また、為替レートの意味や役割・決定理論を中心に、国際金融の基礎についてもカバーするほか、実際の金融危機の事例や最近の金融規制についても概観する。
科目的到達目標 (理解のレベル)	第一に、経済・社会における金融市场や金融システムの役割とその影響をマクロ的に理解したうえで、貯蓄や投資あるいは借入を行うミクロ的な主体として、適切な経済的意思決定ができるようになること。 第二に、上記目的を達成するために、経済・金融ニュースやデータなど経済関連の多様な情報を適切に理解する金融リテラシーを涵養すること。 (くわえて、海外経済・グローバル金融市场の動きが日本経済や個人の経済・金融行動に与える影響を、十分なりタフシーに基づいて議論できるようになること。)
授業形態	講義
授業方法	・通常は、講義形式の授業を行う。 ・ただし、大学の決定や諸状況の変化に応じて、Zoomをメインツールとしたオンライン講義と対面式の併用型ハイブリッド授業形式とする場合もある。 ・各講義の節目において、講義内容の理解を確かなものにするために現実の経済問題への応用を含めた演習問題に取り組み、解答プロセスや分析手法についての解説を行う。 ・授業後の課題の提示・提出にはmanabaを用いる。その他、告知や質疑応答にも適宜、manabaを用いる。詳細は初回授業で説明する。
授業計画	【第1回】オリエンテーション：金融論を学ぶ目的とコースのカバレッジ 【第2回】金融システムの概観：日本の金融システム、長期・資本市場と短期・マネー市場、直接金融と間接金融 【第3回】金利の概念と種類：金利・利子率とはなにか、複利計算、割引現在価値 【第4回】貨幣の概念とインフレ：貨幣の機能と役割、物価の意味、インフレとデフレ 【第5回】為替相場と国際金融1：為替レートの基本、国際収支の考え方、国際収支の恒等式 【第6回】為替相場と国際金融2：為替レートの決定理論、金利裁定式と購買力平価 【第7回】為替相場と国際金融3：為替相場制度、固定相場制と変動相場制、為替介入と金融政策 【第8回】課題解説、Q&A 【第9回】債券市場1：債券の基本と日本の債券市場 【第10回】債券市場2：債券価格と金利、最終利回り、保有期間利回り、その他さまざまな利回り概念 【第11回】債券市場3：金利の期間構造、期待理論、長期金利と短期金利の関係性 【第12回】債券市場4：信用リスクと金利リスク、格付けの意味、流動性 【第13回】課題解説、Q&A 【第14回】株式市場1：日本と世界の株式市場の概観 【第15回】株式市場2：割引配当モデル、リスクプレミアムと要求收益率 【第16回】株式市場と資産選択1：リスクとリターン 【第17回】株式市場と資産選択2：ポートフォリオ理論 【第18回】株式市場と資産選択3：Capital asset pricing model(CAPM)概論 【第19回】課題解説、Q&A 【第20回】銀行の理論と実務1：銀行の役割、情報の非対称性、逆選択、モラルハザード 【第21回】銀行の理論と実務2：商業銀行業務の基本、銀行のバランスシートを理解する

	<p>【第22回】金融危機1：背景としての住宅バブルとサブプライム危機</p> <p>【第23回】金融危機2：証券化、Mortgage backed security, Collateralized debt obligation</p> <p>【第24回】金融危機3：シャドウバンク、too big to fail, 欧州債務危機</p> <p>【第25回】金融規制：預金保険制度、バーゼル3、自己資本規制、流動性規制</p> <p>【第26回】課題解説、Q&A</p>
事前・事後学修	事前：指定テキストの該当チャプターおよび、指定資料(適宜、manabaに掲載)を各自で読みし、疑問点を予め把握しておくこと。 事後：授業後に提出される課題に取り組み、期限内に提出するほか、授業内容や演習問題の解説等を各自でしっかりと復習し、疑問点があれば次の授業の際に質問すること(原則、各授業の終わりに、5分程度の質疑応答時間を確保するので、この枠を適宜利用することを推奨)。また、授業中に提出される演習問題についても、事後に復習し、学期末までに疑問点を解消しておくこと。
成績評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・課題(50%)、期末試験(50%) ・課題は年間10～12回(予定)、採一式の練習問題として出題する(レポートではない)。 ・各回の課題提出期限(manabaへのアップロード)は、課題出題授業の翌週月曜の午12時とする。期限後の提出は原則として受け付けない。 ・授業中に提出する軽めの練習問題に回答することをもって「クラス・パーティション・コントリビューション」として評価・記録する。クラスパーティションが一定点数に満たない場合、期末試験の受験資格を与えない場合がある。詳しくは初回授業で説明する。
教科書・指定図書	(教科書)入門テキスト・金融の基礎/藤木裕/2016/東洋経済新報社 (指定図書)日本銀行の機能と業務/日本銀行金融研究所編/2011/有斐閣
履修上の留意点	事前に、ミクロ・マクロ経済学I,I(必修科目)を履修済みであることが望ましい。 (1)クラス・パーティションが一定点数に満たない、および(2)提出課題が一定数に満たない履修者には、期末試験の受験資格を与えない場合がある。
更新日	2022/3/16

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	EC203
講義コード	1ED000500
講義名	社会保障論
担当者名	権丈 英子
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	B/E/L/I/C
備考	

科目的趣旨	公的年金・医療保険・介護保険等の社会保険制度、および生活保護・児童福祉などの福祉政策について、その概要を講義する。人口の高齢化にともない、社会保険制度は多くの注目を集めようになつた。公的年金は確実に支給されるのか？上昇していく高齢者の医療費をどのようにまかなくていいらしいのか？医療費の自己負担を上げることで、われわれの暮らしにはどのような影響があるのか？この授業では、経済学の考え方を使うとこのような問題についてどのように考えるのか、について学習する。
授業の内容	社会保障の機能および日本の制度に関する概略を学んだのち、社会保障にとって重要な高齢化、少子化等の人口構造の変化やその要因について学ぶ。その後、社会保障を構成する様々な制度（すなわち、子育て支援（家族政策）、公的年金（制度や経済や雇用との関わり）、医療保障（医療保険や医療提供体制）、介護保障（介護保険等）、障害者福祉、公的扶助（生活保護）、雇用対策（雇用保険や非正規雇用の問題への対応）などについて、それぞれの制度の意義、現状、そして改革の論点を考察する。主に、日本の制度について講義していくが、折に触れて、類似の問題を抱える他の先進国の例を紹介して国際比較を行うことで、理解が深まるようにする。
科目的到達目標 (理解のレベル)	①社会保障に関して経済学的視点でとらえることができる。 ②日本の人口構造の変化やその要因について説明することができる。 ③日本の社会保障の各制度（公的年金、医療保障、介護保障、公的扶助、社会福祉等）の意義と仕組みを説明することができる。 ④日本の社会保障に関する歴史的な経緯や国際比較から見た特徴を説明することができる。 ⑤日本の社会保障に関する課題を理解し、現在行われている議論について自分の考えを持つことができる。
授業形態	講義
授業方法	講義形式で行う。responを活用するなどして、できるだけ受講生に意見を出してもらい、双方向型の要素を取り入れる。また、授業の最後にその日の授業内容に関する小テスト（確認問題）をmanabaを通じて行う。翌週の授業の初めに、前回の確認問題を中心に復習を行う。
授業計画	<p>【第1回】社会保障とは？ この講義の進め方、社会保障とは？ 日本の社会保障の大きさ</p> <p>【第2回】人口構造の変化 人口の将来予測、人口高齢化の要因、戦後日本の出生率の動向</p> <p>【第3回】出生率と出産タイミング 出生率指標、結婚の変化、出生率と出産タイミング</p> <p>【第4回】少子化の経済分析 子供を持つことの費用と便益、少子化はなぜ起こるのか？</p> <p>【第5回】少子化への政策対応 日本の少子化対策の歴史、働く女性が増えると出生率は下がるのか？</p> <p>【第6回】日本と欧米の子育て支援策 福祉国家の3類型と子育て支援策（家族政策）</p> <p>【第7回】高齢者の生活保障 高齢者世帯の所得、公的年金の役割</p> <p>【第8回】公的年金制度の概要 保険の仕組みと社会保険、公的年金制度の概要</p> <p>【第9回】公的年金の歴史 公的年金制度の歴史、2004年年金改革</p> <p>【第10回】公的年金制度の改革 2019年財政検証、被用者保険の適用拡大</p> <p>【第11回】高齢期雇用と年金 女性と年金、Work Longerへの施策</p> <p>【第12回】日本の医療の特徴は？ 日本の医療を評価する、公的医療保険制度の仕組みと歴史</p> <p>【第13回】医療サービスの特性 医療サービスの特性と医療需要、社会サービスにおける公私の役割を考える</p> <p>【第14回】医療サービスの価格 医療サービス費用の支払い方式、診療報酬の仕組み</p> <p>【第15回】医療提供体制 日本の医療提供体制の特徴、現在行われている改革</p> <p>【第16回】医療制度の課題と医師の働き方 コロナ下の医療制度の課題と議論、医師の働き方改革</p> <p>【第17回】介護保険制度の成立 高齢者保健医療政策の流れと介護保険の成立</p> <p>【第18回】介護保険制度の現状と課題 介護保険制度の概要、介護保険の利用状況</p> <p>【第19回】日本の介護保障の課題 介護人材、認知症ケア</p> <p>【第20回】生活保護制度の概要 生活保護制度の概要、生活保護の利用状況</p> <p>【第21回】公的扶助のあり方と自立支援 公的扶助の給付のあり方とは？ 生活困窮者自立支援制度</p> <p>【第22回】雇用対策とフレキシブル性 リーマンショックとコロナ下の非正規雇用、フレキシブル性（柔軟性と保障）</p> <p>【第23回】雇用保険制度の概要 雇用調整助成金、失業給付、求職者支援制度</p> <p>【第24回】障害者福祉の概要</p>

	<p>日本の障害者数、障害者福祉に関する思想と歴史 【第25回】障害者福祉改革と障害者雇用 【第26回】社会保障財政とまとめ 社会保障を財政面から考える、これまでのまとめ</p>
事前・事後学修	<p>事前にmanabaを通じて資料を配布するので、授業前にある程度目を通しておくこと。授業終了後は、授業ノート(資料)をふり返り、参考資料もよく読んでおくこと。授業の最後に行う確認問題は復習にも活用してほしい。質問や考えたことがあれば、授業中もしくはmanabaを通じて、質問したりコメントを書いて伝えること。 社会保障は、新聞・雑誌等でも毎日のように取り上げられるテーマとなっている。そうした関連記事に关心を持って目を通すようにしてほしい。</p>
成績評価方法・基準	<p>定期試験40%、平常点60%とする。 定期試験40%は、春学期20%、秋学期20%。 平常点60%は、毎回の小テスト(確認問題)45%、responの質問(アンケート)への回答15%。</p>
教科書・指定図書	<p>テキストは使用しない。資料を配付する。以下には、参考書として社会保障制度全般を取り扱っている文献をあげておく。これ以外にも、個別制度(年金、医療など)に関する説明や興味深い議論を展開している文献を、授業中に紹介する。 (参考文献) ・権丈英子『ちょっと気になる「働き方」の話』勁草書房 ・掠野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』有斐閣 ・権丈善一『ちょっと気になる社会保障』勁草書房 ・権丈善一『ちょっと気になる医療と介護』勁草書房 ・厚生労働省『厚生労働白書』ぎょうせい ・Nicholas Barr, <i>Economics of the Welfare State</i>, Oxford UP.</p>
履修上の留意点	<p>1 manabaを通じて資料配付や課題提出を行う。 2 1回目の授業前にmanabaを確認のこと。</p>
更新日	2022/3/16

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	EC206
講義コード	1ED001400
講義名	産業組織論
担当者名	加藤 一彦
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	B/E/L/I/C
備考	

科目的趣旨	産業組織論はミクロ経済学で学んだ競争の様々な在り方に関する分析手法を、具体的に個々の産業に適用して、その産業の特質を明らかにし、公正な競争の維持に必要な対策を提示することを視野に入れている。この科目の前半は、産業組織の分析のための理論的な基礎概念を概説する。産業組織の分析の基本は、市場構造、市場行動・市場成果という3つの視点から産業の特徴を明らかにすることから始まる。そしてそれらの相互の因果関係を検討し、競争政策の基礎を提供する。後半では、具体的に日本の産業組織の現状、課題、対策を見していく。日本の産業組織については特に外国と比較して、日本企業のコーポレートガバナンス、系列等の企業間関係、企業・市場と社会制度関係、等に特質があり、それらの特質を明らかにする必要がある。その上で、個別の産業組織の特徴を概観し、それにより日本の寡占産業における、製品差別化、系列、過剰設備、研究開発、等の諸要因の競争への影響、あるいは日本独自の寡占禁止政策の有効性を明らかにする。
授業の内容	産業組織論で取り扱われるトピックの中でも特に寡占市場に注目して、戦略的相互依存関係がある中での企業行動について解説する。講義の前半では、まず、戦略的相互依存関係のない完全競争市場と寡占市場における企業の行動について解説する。その後、寡占市場を分析する上で代表的な2つのモデルであるクールノー・モデルとペルトラン・モデルについて取り上げ、各モデルにおける企業行動について解説する。寡占市場ではしばしば熾烈な競争が行われるので、その競争を回避し、より多くの利潤を得るための策をいくつか取り上げ、それぞれ解説する。講義の後半では立地選択、談合問題、水平的合併、民営化、環境問題について解説する。言葉による解説だけではなく、数式を用いたモデルによる解説も行うため、適宜、授業中に数学の復習をする。
科目的到達目標 (理解のレベル)	産業組織論の中でも特に寡占市場に関わる内容について、基本的な知識と考え方、計算方法を身につけることを目標とする。具体的な目標は以下の通りである。 1. 授業で取り上げた各モデルにおける企業行動や均衡について、経済理論に基づいた説明で理解し、さらに一部のモデルについてはそれらを計算で求めることができる。また、関連する専門用語をきちんと理解できる。 2. モデルの仮定の重要性について理解できる。 3. 言葉や数式、図などを使用して、他の学生に自分の意見を分かりやすく説明することができる。
授業形態	講義
授業方法	教員が作成したレジュメを用いて授業を進める。 【授業前】毎回、manabaのコースコンテンツに配布資料をupするので、学生にはそのファイルを事前にダウンロードしてもらい、manabaで出されているアンケートや課題に取り組んでもらう。 【授業中】教員が配布資料や練習問題の解説を行う。また、Zoomやレスポンなどを使用してアンケートやグループワークを実施する。各授業のはじめには、事前に行ったmanabaのアンケートや課題とともに前回の小テストの結果紹介や解説を行う。 【授業後】学生には理解度確認のために出題されるmanaba上の小テストを受験してもらう。
授業計画	【第1回】 産業組織論が取り扱う内容についての大まかな説明 ゲーム理論や数学の復習 【第2回】 消費者と生産者の復習 市場構造・市場行動・市場成果についての説明 【第3回】 完全競争: 数値例を用いた説明 線形モデルにおける均衡の求め方についての解説 【第4回】 寡占: 数値例を用いた説明 線形モデルにおける均衡の求め方についての解説 【第5回】 寡占: クールノー・モデルにおける各企業の反応関数と均衡の求め方についての解説 【第6回】 寡占: ペルトラン・モデルにおける各企業の反応関数と均衡の求め方についての解説 【第7回】 同質財の生産・販売競争①: 同一の限界費用を持つ場合、利潤をより得るためのアイデアの創出 【第8回】 同質財の生産・販売競争②: 新規に出店するにあたって集客するための広告の作成 【第9回】 第7回に行った課題に対するコメント 水平的差別化と垂直的差別化についての言葉による説明 【第10回】 第8回に行った課題に対するコメント 広告の種類や機能についての言葉による説明 【第11回】 研究開発投資①: 単位当たりの生産費用を下げるためのR&D活動に関するゲームの実施 【第12回】 研究開発投資②: R&D活動を含むクールノー・モデルを使用した前回のゲームの解説 【第13回】 研究開発投資③: 単位当たりの生産費用を下げるためのR&D活動に関する練習問題とその解説 これまでの内容の振り返りと質疑応答 【第14回】 夏休み前に実施した期末試験の結果の紹介と解説 今後のトピックについての簡単な紹介 【第15回】 立地選択①: 教員が作成した2種類の立地選択に関するゲームの実施とその解説 【第16回】 立地選択②: 前回の立地選択に関するゲームの応用例の紹介 学生による立地選択ゲームの作成 【第17回】 立地選択③: 学生が作成したゲーム(1, 2, 3)の実施と均衡の導出

	<p>【第18回】立地選択④:学生が作成したゲーム(4, 5, 6)の実施と均衡の導出</p> <p>【第19回】立地選択⑤:残りの提出されたゲームに関するコメント 立地選択に関するまとめ</p> <p>【第20回】談合に関するゲームの実施とその解説 談合問題に関する言葉による解説</p> <p>【第21回】水平的合併に関する解説 3社寡占モデルを使用した合併へのインセンティヴの確認</p> <p>【第22回】環境問題と寡占市場①:排出量取引ができる場合の寡占市場における企業行動に関するゲームの実施 言葉による解説</p> <p>【第23回】環境問題と寡占市場②:排出量取引市場を含むクールノーモデルを使用した解説</p> <p>【第24回】公企業の民営化問題に関する解説①:公企業についての説明 公企業による独占市場と混合寡占市場における民営化問題について 言葉による解説</p> <p>【第25回】公企業の民営化問題に関する解説②:混合寡占モデルを使用した解説</p> <p>【第26回】授業で取り扱わなかったトピックの簡単な紹介と1年間の授業の内容の振り返りと質疑応答</p>
事前・事後学修	<p>【事前学修】コースコンテンツ内にupされた配布資料にきちんと目を通し、事前にmanabaで出されているアンケートや課題に取り組むこと。その際、分からなかった箇所についてメモをとっておくこと。また、配布資料で取り扱われているトピックについて、新聞やインターネット、自身の経験などから適切な例を作つてみること。</p> <p>【事後学修】理解度確認のために出題されるmanaba上の小テストを受験すること。その際、授業中にメモを取った部分や練習問題の解き方等を見直すこと。産業組織論に関連した図書を持っている場合には、練習問題に自主的に取り組むこと。</p> <p>分からないことがあればメールで問い合わせること。</p>
成績評価方法・基準	<p>成績評価は以下の通り。</p> <p>【平常点】50% 内訳 前期:25% 後期:25%</p> <p>【期末テスト】50% 内訳 前期:25% 後期:25%</p> <p>注意: 期末テストについては必ず受験すること。受験しなかった場合、成績評価を与えない。</p> <p>平常点については小テストの結果や授業中のコメント、授業前後の課題の提出状況やその内容などを総合して点数をつける。期末テストでは授業で取り扱った様々なトピックから問題が広く出題される。専門用語の解説だけではなく、計算問題も含まれるので、数学が不安な人は高校までの数学を復習しておくこと。追試験は原則、認めない。</p>
教科書・指定図書	<p>教科書:なし 指定図書:なし</p> <p>参考図書: 小田切宏之 (2019)『産業組織論 理論・戦略・政策を学ぶ』有斐閣</p>
履修上の留意点	<p>1. 本演習ではある程度の数学の知識やゲーム理論の知識が必要となる。なるべく事前にゲーム理論を履修しておくこと。履修していない場合には、本演習とゲーム理論を同時に履修すること。 2. メールで指示を出すことがあるので、適宜メールを確認し、メールがあった場合には必ず返信すること。</p>
更新日	2022/3/16

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	EC209
講義コード	1ED001500
講義名	都市経済学
担当者名	猪原 龍介
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	E
備考	

科目的趣旨	都市の誕生、発展および都市が抱える諸問題を経済学の視点で学ぶことを目的としている。都市の形成過程、その形成過程における都市集中、さらに大都市の成長と衰退いう現在の都市問題を分析するための基礎を理解し、その上に立って土地、住宅市場に関する問題、都市交通における混雑と交通投資の問題、都市の環境問題、都市の財政問題等の個別問題を学ぶ。これらの分析を通じて都市が抱える諸問題に一定の理解を得ることが出来る。
授業の内容	情報化・グローバル化の進む現代において、都市の拡大傾向が強まっています。日本でも都市に居住する人口(市部人口)は対全国比で1955年から2005年の86%まで上昇し、同様に首都圏(東京・神奈川・千葉・埼玉)の人口も2012年に28%を越えています。コロナ禍で集中化の傾向はやや弱まっているとはいえ、都心への人口増加の傾向は継続しています。 なぜ都市に人や企業が集まり、東京一極集中が進むのか。本科目では、前期において都市の形成要因や都市システム、都市的土地利用などについて学びます。そこで都市の特性を理解したうえで、後期には土地市場や住宅市場、都市政策などについて学び、都市が抱える問題点やその対処法などについて学びます。
科目的到達目標 (理解のレベル)	都市の形成や都市内の土地利用、都市問題等について、経済学の視点から理解できるようになることを目標とする。 ①集積の経済について学び、なぜ人や企業が一部特定の地域に集まり、都市が形成されるのかを理解する。 ②都市がどのような秩序をもって空間的に分布しているかを理解する。 ③都市内の土地利用がどのように決まるのかを学び、付け値地代の考え方を理解する。 ④都市内に発生する外部性の問題について学び、ビーグー課税や土地利用規制といった対処法について理解する。
授業形態	講義
授業方法	対面方式の授業およびオンラインでの小テストを併用した形式で行う。詳細については、manabaのコースコンテンツおよび初回の授業で提示するが、授業の進め方は基本的に以下の通りとなる。 ①授業:教室でスライドを提示しながら、解説を行う(前回授業の復習、後述の小テストの解説を含む) ②小テスト: manabaの小テスト機能を使って、毎回の内容について理解の確認を行う。学期の中間時点と最終時点で、それまでの学習理解の確認のための総合的な小テストを行う予定。
授業計画	【第1回】前期イントロダクション、都市の概念 キーワード:都市化の進展、都市地域の定義 【第2回】都市圏 キーワード:昼夜間人口比率、都市雇用圏、都市制度 【第3回】都市化の進展 キーワード:集中的都市化、分散的都市化、都市化の段階論 【第4回】都市集積の諸要因 キーワード:マーシャル外部性、共有分業、適合、学習 【第5回】都市集積の理論 キーワード:都市化の経済、地域特化の経済、ロックイン効果 【第6回】工業都市、都市規模に関する理論的考察 キーワード:産業クラスター政策、均衡における都市規模 【第7回】最適都市規模【前期中間小テスト】 キーワード:純収益の最大化、自治体の最適規模 【第8回】都市間の人口移動 キーワード:グローバル化、都市化の進展、グローバル化、ストロー効果 【第9回】都市の規模分布と空間分布 キーワード:ランク・サイズ・ルール、クリスターの中心地理論 【第10回】農業立地 キーワード:日本の農業の分布、付け値地代理論、チューネンリング 【第11回】都市的土地利用(1) キーワード:家計の効用最大化行動、住宅に関する付け値地代の考え方 【第12回】都市的土地利用(2) キーワード:都市構造に関する理論的考察、ドーナツ化、都市内の住み分け 【第13回】付け値地代と都市構造(3)、【前期期末小テスト】 キーワード:都市内における企業間取引費用と企業立地 【第14回】後期イントロダクション、土地市場 キーワード:土地市場の特性、土地市場における需要と供給の考え方 【第15回】地価と地代 キーワード:地価の決まり方、地代との関係、裁定取引 【第16回】土地とバブル キーワード:地価の推移、バブル発生の条件、バブルの考え方 【第17回】土地税制 キーワード:土地税制の仕組みと土地利用に与える影響 【第18回】近隣外部性 キーワード:都市内で発生する外部性の問題、その対処策 【第19回】都市計画 キーワード:都市計画区域、用途地域、ゾーニング、形態規制など 【第20回】その他の土地政策【後期中間小テスト】 キーワード:開発規制、生産緑地、空中権など 【第21回】住宅市場 キーワード:都市の住宅問題、住宅サービス市場、住宅ストック市場

	<p>【第22回】住宅政策(1) キーワード: 住宅政策の目的と種類、公共住宅の供給</p> <p>【第23回】住宅政策(2) キーワード: 住宅補助金、借地借家法、地代家賃統制令など</p> <p>【第24回】都市と交通政策 キーワード: 渋滞問題、派生需要、自然独占、ロードプライシングなど</p> <p>【第25回】都市と公共政策 キーワード: 地方公共財の最適供給、ティプー仮説など</p> <p>【第26回】都市と地域政策、【後期期末小テスト】 キーワード: コンパクトシティ政策、産業クラスター政策など</p> <p>学理解の程度に応じて、授業のスケジュールなどを調整する場合があります。manabaの授業コンテンツをこまめに確認するようにしてください。</p>
事前・事後学修	<p>事前学修: 各回の教科書範囲に目を通しておくこと。読んでわからないところがあれば、そこに注意しながら授業を受けることで、理解が深まります。また、日頃から授業内容に関連したニュースなどに注意を払っておくことも大切です。問題意識を持つことで、勉強するモチベーションが高まります。</p> <p>事後学修: 教科書や講義資料、ノートなどを復習して、自分の理解を確認しておいて下さい。とくに小テストの出来が悪かった場合は、入念な復習が必要です。</p>
成績評価方法・基準	<p>【毎回の小テスト11回分】40% 毎回、教科書の内容について説明したあとで、manabaを使った小テストを行います。それにより、自分がどの程度授業内容を理解できているかを確認してください。</p> <p>【中間の小テスト】30% 学期の中間時点でのまでの学習理解の確認のためのまとめた小テストを行う予定です。</p> <p>【期末の小テスト】30% 学期の最終時点での、学期を通したミクロ経済学Ⅰの学習理解の確認のための総合的な小テストを行う予定です。</p>
教科書・指定図書	<p>教科書: 山田浩之・徳岡一幸『地域経済学入門[第3版]』有斐閣コンパクト(ISBN: 978-4641165229)</p> <p>参考文献: 金本良嗣・藤原徹『都市経済学[第2版]』東洋経済新報社 黒田達朗・田淵隆俊・中村良平『都市と地域の経済学[新版]』有斐閣ブックス</p>
履修上の留意点	特になし。
更新日	

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	ED201
講義コード	1EE000500
講義名	アジア経済史
担当者名	水野 明日香
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	B/E/L/I/C
備考	

科目的趣旨	19世紀の半ば過ぎまでの時期にアジア地域は歐米諸国の植民地・半植民地支配下におかれ、一次産品の供給地として世界資本主義経済システムに包摂された。この過程で、アジア地域は近現代化の波にさらされ、在地の経済・社会構造は大きく変化した。本科目は前半でこの変化の過程、およびこの変化により生じた諸問題を扱うものである。対象とするアジア地域は、西はインド、東は日本を除く東アジアとし、時代は近世から第二次大戦までの時期を扱う。後半では、第二次大戦後、アジア諸国が欧米の植民地支配から独立し、経済的にも植民地時代に形成されたモノカルチャー構造から脱却し、自立経済の形成、工業化を図る過程を経済史的に理解することを目指す。
授業の内容	今日、多くのアジア諸国は経済発展を開始し、経済構造も変化を遂げている一方で、発展が未だ遅れている国もあるし、貧困は地域的に偏在している。このような違いは、歴史的経路に依存している。この授業では、経済発展とは各國の経済的進歩の歴史であることを前提とし、アジアの国々は、日本や世界の経済などどのようにかかわり、いかに発展してきたのか、もしくは発展の波に乗り遅れているのかを社会経済史の視点から学ぶ。これにより、経済社会を総合的に理解するために必要な社会科学の幅広い知識と教養、およびアジアを始めとする国際社会の一員として、直面する課題に取り組む能力を身につける。 授業は、ヨーロッパとの交流が本格的に開始した16世紀の大航海時代から、植民地体制が固まる第一次世界大戦までの時期を扱う。具体的には、アジアとヨーロッパの産業革命の関係、今まで続くアジア諸国との経済的特徴の源流である、植民地支配下で形成された一次産品の輸出構造、国境線・移民問題、アジア域内の貿易関係を学ぶ。 秋学期は、現代への移行を開始する両大戦間期から、21世紀までの時期を扱う。具体的には、世界恐慌、日本の占領下での一次産品の生産、貿易構造の変容、冷戦体制と開発独裁の下での工業化政策、構造調整と外国直接投資の増加といったトピックについて学ぶ。
科目的到達目標 (理解のレベル)	この授業は、ディプロマポリシーの③「アジアを始めとする国際社会の一員として、直面する課題に積極的に取り組む能力を身につけている」に寄与する科目として位置づけられている。よって求められる学修の到達目標は、以下である。 ①ヨーロッパの工業化に果たしたアジアの役割とその過程でのアジアの変化を説明できる。 ②アジア諸国との比較から説明できる。 ③現在のアジア経済の特徴が形成された過程を説明できる。 ④①から③を応用し、今日のアジア社会が直面する課題を発見し、これに対する解決策を描ける。
授業形態	講義
授業方法	授業は資料等を用いながら、講義形式で行う。授業で使用する文書・統計資料、パワーポイントレジュメは、manabaのコンテンツにアップしておくので、学生はこれらを利用して、講義ノートを作成する。 授業の最後では、manabaの小テスト機能を利用し、理解度の確認を行い、学んだ知識の定着を図る。また授業終了後には、記述式の課題に答え、知識を実社会に応用する練習を行う。 普段の授業は対面式で実施するが、天候不順等の事情によっては、大学の指示に従い、Zoomでオンライン授業を行う場合もある。
授業計画	春学期 【第1回】アジア経済の過去と現在一大航海時代の始まり 内容: ①授業のガイダンス: 授業の進め方、小テストの受け方、課題の提出を説明 ②アジアの交易ネットワーク、港市国家の出現、朝貢貿易について 【第2回】大交易時代の変容—ポルトガル、スペインとの遭遇 内容: ①香辛料貿易の拡大、②ポルトガル、スペインによる前期的植民地支配の始まり、③グローバルな港市アユタヤの特徴について 【第3回】大交易時代の終焉—オランダ東インド会社のアジア進出 内容: ①世界で最初の株式会社の設立、②オランダの陸上カリ、③コーヒーの強制栽培について 【第4回】イギリス東インド会社のインド支配 内容: ①イギリスのインド支配の始まり、②地租査定と土地改革について 【第5回】アジアにおける三角貿易とアヘン戦争 内容: ①アジアの三角貿易、②アヘン戦争、③自由貿易帝国主義論とアジアの近代について 【第6回】後期植民地国家の形成 内容: ①歐米によるアジアの植民地化、②国境線に関するアジアとヨーロッパの認識の差異 【第7回】プランテーション型植民地経済の成立①—フィリピン、インドネシアの砂糖 内容: ①フィリピンの大土地主制・アンエンダ、②ジャワの砂糖の強制栽培について 【第8回】プランテーション型植民地経済の成立②—マラヤの錫とゴム 内容: ①マラヤの錫鉱山業の主体の変遷、②移民労働者と多民族国家、③ゴム生産の主体の変遷、④経営代理店制度について 【第9回】食糧供給型植民地経済の成立—仏印、タイ、ビルマの米 内容: ①大陸部デルタの開拓、②農民の土地喪失と地主制、③モラルエコノミー論、複合社会論、余剰のはけ口論について 【第10回】日本の植民地支配下における台湾経済の変容—米糖相克問題の発生 内容: ①台湾支配と日本の製糖業、②原料区域採取制度、③米糖相克問題 【第11回】朝鮮の植民地支配 内容: ①植民地統治の確立、銀行、土地改革、②産米増産運動、③工業化について 【第12回】アジア内交易の拡大 内容: ①アジア内交易と日本の工業化、②インドにおける紡績業の勃興、③中国の綿糸・綿布市場と在華紗について 【第13回】植民地時代の代表的産物の現在 内容: ①米、②コーヒー、砂糖、③ズズ、ゴムの狙い手と产地の変化 秋学期 【第14回】世界恐慌のアジア経済への影響—貿易構造の変化 内容: ①貿易の縮小と一次産品価格の下落、②貿易相手国の変化について 【第15回】世界恐慌のアジア各国への波及—農村社会の変容と経済的ナショナリズムの高まり 内容: ①ビルマの例: 農民の土地喪失、農民大反乱、経済改革案、②タイの例: 立憲革命、経済的ナショナリズムについて 【第16回】日本の満州経営 内容: ①昭和恐慌から満洲國の設立まで、②満洲の経済的理屈、③満洲移民について

	<p>【第17回】第二次世界大戦後の日本の南進と東南アジア経済の荒廃 内容: ①大東亜共栄圏構想、②日本の軍政下の物資・労働力の調達、軍票の乱発について</p> <p>【第18回】中華人民共和国の誕生－中国における土地改革 内容: ①中国における土地改革の実施過程、②土地改革の意義</p> <p>【第19回】1950年代のアジアの政治経済－反共と政治経済の混乱 内容: ①インドネシアの事例: オランダとの戦争、国有企業の設立、②タイの事例: 政治的混乱とサリット政権の誕生</p> <p>【第20回】1960年代のアジア経済 ①ベトナム、ミャンマー、カンボジアの社会主義化 内容: ①第一次インドシナ戦争から第二次インドシナ戦争へ、②社会主義下のベトナム経済、③カンボジアの「クメール式社会主義」、ビルマの「ビルマ式社会主義」について</p> <p>【第21回】1980年代のアジア経済 ②開発体制の成立 内容: ①開発体制とは何か、②成立した国際的要因、③成立した国内的要因</p> <p>【第22回】1970年代のアジア経済 ①緑の革命 内容: ①緑の革命とは何か、②緑の革命の実施事例: フィリピンについて</p> <p>【第23回】1970年代のアジア経済 ②工業化戦略と経済的ナショナリズム 内容: ①輸入代替工業化政策、②輸出志向工業化政策、③タイの経済的ナショナリズム、マレーシアのブミトラ政策について</p> <p>【第24回】1980年代のアジア経済 ①構造調整、インセンティブ改革 内容: ①構造調整とは何か、②タイ、インドネシアの事例、③社会主義国インセンティブ改革: 中国の改革開放路線、ベトナムのドイモイについて</p> <p>【第25回】1980年代のアジア経済 ②プラザ合意と外資主導の輸出志向工業化 内容: ①プラザ合意、②東南アジアへの外国投資の流入、③貿易相手国の変化について</p> <p>【第26回】アジア経済の課題 経済成長と民主化、圧縮された近代 内容: ①開発体制の溶解、②社会主義経済体制の放棄、③民主化と経済成長について、④圧縮された近代、中所得国の人間</p>
事前・事後学修	<p>事前学習: 授業で使用する文書・統計資料、パワーポイントレジュメは、1週間前にmanabaのコンテンツにアップしておくので、事前に目を通し、疑問点や気になる点を確認しておくこと。</p> <p>事後学習: 授業のノートを整理し、復習しておくこと。その際には、manabaの小テスト機能も活用すること。その上で、課題に取り組むこと。授業中に紹介する文献で、気になるものは図書館等を利用して入手し、各自、目を通すこと。分からないことがある場合は、指定図書①で確認し、それでも分からない場合はメールで質問すること。</p> <p>また普段から、アジアの現代的な問題に関心を持つことも重要である。ネット等で海外ニュースに目を通す習慣をつけること。</p>
成績評価方法・基準	<p>①平常点 60% a. 授業時間内の小テスト(毎回) 20% b. 課題の提出(毎回) 40%</p> <p>②試験40% a. 春学期期末試験 20% b. 秋学期期末試験 20%</p> <p>※ただし課題の未提出が1/3を超えた場合は成績評価の対象としない。また期末試験は、春学期と秋学期ともに受けること。どちらかを受験しなかつた場合は成績評価の対象としない。 ※課題の評価は、授業を踏まえているか、その上で自らの見解が述べられているかで行う。</p>
教科書・指定図書	<p>指定図書 ①加納啓良『東大講義東南アジア近現代史』めこん、2012年。 ②加納啓良『資源大国』東南アジア 世界経済を支える「光と陰」の歴史』洋泉社、2014年。 ③Ian Brown, Economic Change in South-East Asia, c.1830-1980, Oxford University Press, Kuala Lumpur, 1997. ・その他の文献については、授業中に紹介する。</p>
履修上の留意点	経済史概論を受講していることが望ましい。
更新日	2022/3/16

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	ED202
講義コード	1EE000600
講義名	欧米経済史
担当者名	須永 隆
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	B/E/L/I/C
備考	

科目的趣旨	欧米諸国の経済発展に関して、工業化は産業革命以降に本格化したといわれるが、内側をよくみると、そこに至るまでに、前提となる条件が徐々に整えられていたことがわかる。ここではまず、近世の農村工業の収生から産業革命に至るまでの経過を見つめ、次いで、産業革命以降の工業史に注目する。機械製工場の発達、技術革新や労働運動の展開、自由貿易主義や帝国主義、さらに経済恐慌などのテーマを通じて、資本主義システムの特徴を理解する。欧米諸国工業化過程を全体的にたどることが、この講義の目的である。
授業の内容	経済史概論(ただし前提科目ではない)を履修した学生が一段と高い歴史意識をもてるよう指導したい。歴史は暗記物と考えてきた人もいるだろうが、本当はそうではない。同時代に身を置いて考える習慣をつけることで、歴史の流れを理性的に見ることが可能となるだろう。オーソドックな内容でありながら、さまざまな視点から、歴史を学ぶ楽しさを示してみる。就職が厳しい時代、自分が置かれた時代を客観的に見つめなおすのに役立つだろう。「現在」の意味を知るためにも、歴史を学ぶべきである。そのことを示すつもりである。 欧米の歴史が植民地主義や帝国主義など海外膨張を伴うことは周知のことではあるが、この授業では単なる資本主義論ではなく、近代資本主義の生成・発展について特に扱うこととする。
科目的到達目標 (理解のレベル)	この科目的到達目標は、学生が古代・中世・近世・近代、そして現代と、基本的な欧米経済史の流れを自分でわかるようにすることである。しっかりと学べば、欧米で起きていたり現れる事象を自分で歴史的に判断できるようになるだろう。世界のグローバル化はますます進んでおり、インターネットから様々な情報が溢れんばかりに伝えられてくる。その中で必要なのは、情報の選別化であり、知識の体系化である。歴史知識を整理することで、どのような角度で歴史を見ていくか、理解することが可能となるであろう。
授業形態	講義
授業方法	前期・後期ともに授業は原則として対面方式とする。教室から講義形式の授業をおこなう。教室では対話を盛り込んで授業を展開する。パワーポイントの使用を基本とし、途中に映像、動画を織り込んでいくことになるだろう。毎回、丁寧に真面目に授業を進める。また、毎回、課題が出され、次回の授業までに提出(マナバを使用)が求められる。授業中に特定のテーマについて学生同士で考える時間を設ける。意見交換を通じて自主的な学びを促すことになる。
授業計画	<p>(前期)</p> <p>【第1回】 テーマ: 中世ヨーロッパにおける世界経済(1)遠隔地商業と遍歴商人—奢侈品生産・奢侈品市場 内容: 商業の復活、商業圏、遠隔地商業</p> <p>【第2回】 テーマ: 中世ヨーロッパにおける世界経済(2)スペインとポルトガル 内容: 新航路の開拓</p> <p>【第3回】 テーマ: 中世ヨーロッパの農村的世界(1) 内容: 中世の土地制度と農民</p> <p>【第4回】 テーマ: 中世ヨーロッパの農村的世界(2)農民の生活 内容: 伝統主義、慣習</p> <p>【第5回】 テーマ: 中世ヨーロッパの都市的世界(1)理念と構造 内容: 中世都市の構造</p> <p>【第6回】 テーマ: 中世ヨーロッパの都市的世界(2)同業組合の形成 内容: 中世都市と市民</p> <p>【第7回】 テーマ: イギリスにおける農村工業の展開(1)独立自営農民の形成 内容: 農村工業、転換期としての15世紀</p> <p>【第8回】 テーマ: イギリスにおける農村工業の展開(2)中産的生産者層の成長、市民社会の形成 内容: プロト工業化論</p> <p>【第9回】 テーマ: 国家の形成と重商主義 貿易差額主義、産業保護 内容: 重金主義 貿易差額</p>

	<p>【第10回】 テーマ:固有の重商主義の社会的背景—国民的産業の形成 内容:産業保護 固有の重商主義 イギリスとオランダ</p> <p>【第11回】 テーマ:投機としての資本主義—南海泡沫事件の歴史的意味 内容:経済的繁栄と富</p> <p>【第12回】 テーマ:農村工業の成長と地城市場の出現 内容:国民的産業としての毛織物工業の発展</p> <p>【第13回】 テーマ:イギリスの海外市場と植民地獲得 内容:北米植民地の支配</p> <p>(後期)</p> <p>【第14回】 テーマ:イギリス産業革命の歴史的意義(1)前提条件 内容:人口増大、植民地獲得、国内需要の増加など</p> <p>【第15回】 テーマ:イギリス産業革命の歴史的意義(2)経過と結果 内容:木綿工業と製鉄業を中心</p> <p>【第16回】 テーマ:工業化の波及と後発国の経済発展(1)イギリス植民地としての北アメリカ 内容:南北アメリカの差異、北米の形成過程</p> <p>【第17回】 テーマ:工業化の波及と後発国の経済発展(2)財務長官ハミルトンの経済構想 内容:北米の経済政策、イギリス支配からの離脱</p> <p>【第18回】 テーマ:工業化の波及と後発国の経済発展(3)ドイツの事情 内容:ドイツ固有の事情、エルベ川・東西の差異</p> <p>【第19回】 テーマ:工業化の波及と後発国の経済発展(4)F.リストの国民経済理論 内容:関税同盟、鉄道政策、重工業化</p> <p>【第20回】 テーマ:世界経済の拡大と自由貿易体制の確立 内容:イギリス中心の世界経済</p> <p>【第21回】 テーマ:世界経済の拡大と帝国主義体制の摩擦 内容:1870年代からの長期不況、イギリス経済の相対的低下</p> <p>【第22回】 テーマ:1920年代のアメリカ経済—繁栄と投機的経済の萌芽 内容:空前の好景気を迎える北米</p> <p>【第23回】 テーマ:1930年代の世界経済(1)—ケインズ経済学形成の背景 内容:北米の大恐慌</p> <p>【第24回】 テーマ:1930年代の世界経済(2)—ニューディール政策 内容:F.ローズベルトの経済政策</p> <p>【第25回】 テーマ:欧米資本主義と戦後の世界(1)アメリカ中心の世界 内容:戦前の教訓を生かした戦後の世界の構築</p> <p>【第26回】 テーマ:欧米資本主義と戦後の世界(2)多極化する経済、広がる格差、南北問題 内容:相対化する世界経済</p>
事前・事後学修	歴史の学びは教室以外の場、とくに図書館や自宅で、関連図書をじっくり読むことが大切である。この授業では、読むべき参考図書が指示され、定期的に宿題も課される。参加者は、眞面目な読書を実践して、与えられた宿題をレポートとして丁寧に仕上げ、提出することが求められる。また参考図書をあげるので、自分からそうした本を手に取り、丁寧に読むことをすすめる。図書館で借りて読むのもいいが、自分で購入して、永らく手元に置いて読むことも大切である。
成績評価方法・基準	レポート提出、平常点、後期試験を総合して成績評価する。評価の目安は課題30%、平常点20%、後期試験50%程度とする。折々で課題に対するレポートを提出してもらいたい。知識を確認してもらいたい。レポート提出の方法はmanabaを利用する。平常点は授業参加の度合いをはかるものである。質問などに答えてもらうことにより加点する。後期試験は教室でおこなう予定である。一年間の授業を全体として把握できるような試験を考えることになる。
教科書・指定図書	教科書は指定しない。配布資料(担当者作成のテキスト)を中心に講義を進める。 (参考図書) 須永隆『プロテスタント亡命難民の経済史』昭和堂、2010年。
履修上の留意点	1 真面目かつ楽しい授業にしたいので、意欲のない安易な履修は避けてほしい。 2.毎回の課題提出を心掛けて欲しい。
更新日	2022/3/16

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	ED210
講義コード	1EE001200
講義名	日本経済史
担当者名	神谷 久覚
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	B/E/L/I/C
備考	実務経験のある教員による授業科目である。

科目的趣旨	日本の経済史を特徴づけるのは、①明治維新以降の急激な近代化、②1950年代後半から1970年代前半の高度成長である。とりわけ戦後の高度成長は、現在の日本経済の基礎を築いた点で重要であるが、それも変化しつつある。本科目では上記の2点を中心に、経済政策、企業活動、貿易等について掘り下げ、日本の経済発展の構造的特徴を理解し、日本経済の諸問題を解決するための基礎を養うことを目指している。
授業の内容	<p>この科目は、ディプロマポリシーの2「グローバルな視点を含めて、さまざまな視点から経済社会を総合的に理解するために必要な社会科学の幅広い知識と教養を身に附けている」に寄与する科目として位置づけられている。</p> <p>授業では、江戸時代から1980年代前半までの日本経済史について、以下の3つの内容を中心として、授業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①日本が経済発展の過程でどのような困難に直面し、克服していったかを、海外の事例と比較しながら検討する。 ②対外戦争、経済発展に伴って、各種制度や企業活動等がどのように変化したのか。 特に、日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦及び第二次世界大戦が、日本の経済制度や企業活動に及ぼした影響に注目する。 ③政府や日本銀行の諸政策が、経済活動にどのような影響を及ぼしたか。 <p>政府(幕府)の諸政策が経済活動に影響を及ぼしていたことを踏まえて、政府・日本銀行の経済・金融政策について掘り下げて検討する。</p>
科目的到達目標 (理解のレベル)	<p>この科目は、ディプロマポリシーの2「グローバルな視点を含めて、さまざまな視点から経済社会を総合的に理解するために必要な社会科学の幅広い知識と教養を身に附けている」に寄与する科目として位置づけられている。従って、この授業の到達目標は、以下の3点である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①日本経済の特徴について、経済政策、企業活動、貿易の観点から説明できる。 ②日本の経済発展の特徴について、欧米諸国やアジア諸国と比較して説明できる。 ③経済成長を主導した産業とその特徴について、時期ごとに明確に説明できる。
授業形態	講義
授業方法	<p>授業はPowerPointのスライドを使用し、板書による説明を行う。各回の授業で扱う内容については、事前にmanabaに資料をアップロードする。</p> <p>基本的には講義形式で行うが、授業中に質問した内容について、responや口頭で解答してもらうことで、履修者が授業に主体的に参加することを求める。</p> <p>資料には授業内容の全ては書かれていないので、授業中の板書や口頭での説明をメモすることが必須である。授業内容に関して分からぬ点があれば、授業中または授業後を問わず質問を歓迎する。</p>
授業計画	<p>【第1回】ガイダンス/江戸時代の農業 授業全体の概要について説明した上で、江戸時代の農業について、年貢の徴収、新田開発、商品作物生産等に注目して考える。</p> <p>【第2回】江戸時代の都市経済 江戸時代の三都の発展、貨幣制度、三大改革における経済政策について学ぶ。</p> <p>【第3回】幕末開港と日本経済 19世紀半ばの国際環境の変化について学んだ上で、アメリカの開港要求の経済的背景や居留地貿易の実態、開港の経済的影響について考える。</p> <p>【第4回】明治維新と経済制度の改革 明治時代初期の政府の財政状況や、秩禄処分及び地租改正の背景、通貨金融制度の整備過程について学ぶ。</p> <p>【第5回】殖産興業政策、政商の形成と展開 明治政府による殖産興業政策の背景や、会社制度の導入、官業払下げと政商の関係について考える。</p> <p>【第6回】大隈・松方財政 大隈重信、松方正義による経済政策について学んだ上で、経済政策が経済活動に及ぼす影響について考える。</p> <p>【第7回】日本の産業革命 日本の産業革命の特徴について学んだ上で、紡績業、製糸業、鉄鋼業、機械工業の発展の特徴について考える。</p> <p>【第8回】日清戦後経営と金本位制の確立 日清戦争の賠費調達や、日清戦争で清国から得た賠償金の重要性、金本位制確立の背景について考える。</p> <p>【第9回】日露戦後の日本経済 日露戦争の戦費調達のあり方が日露戦争後の日本経済に及ぼした影響や、日露戦争後の経済政策、外資導入及び国際収支の推移について考える。</p> <p>【第10回】財閥の形成と発展 財閥とは何かを学んだ上で、三井、三菱、住友の各財閥の特徴について検討する。</p> <p>【第11回】農村における地主制 近代の日本経済において農業部門が占めた比重、農業技術の発展、寄生地主制の確立過程について学ぶ</p> <p>【第12回】第一次世界大戦と日本経済 第一次世界大戦が日本経済に及ぼした影響について考える。</p> <p>【第13回】春学期のまとめ 春学期の授業内容に関するまとめを行い、春学期の授業内容全般に関する質問を受け付ける。また、レポート課題のテーマを提示する。</p> <p>【第14回】1920年代の日本経済</p>

	<p>1920年恐慌が発生した背景と、1920年代の日本経済の特徴について考える。</p> <p>【第15回】井上財政期の経済政策 金本位制への復帰を巡る議論の内容と、井上準之助による経済政策の特徴について学ぶ。さらに、世界恐慌が日本経済に及ぼした影響について考える。</p>
	<p>【第16回】高橋財政期の経済政策 高橋是清による経済政策の特徴について学んだ上で、その政策が日本経済に及ぼした影響について考える。</p>
	<p>【第17回】戦時経済の形成と展開 1930年代後半以降、政府が経済活動に対する介入を強めていく背景について学ぶ。</p>
	<p>【第18回】新興財閥の台頭と財閥の変容 化学工業を中心とする新興財閥の台頭と、1930年代の財閥の変容について学んだ上で、戦時経済期の財閥の活動について考える。</p>
	<p>【第19回】戦時経済の破綻と戦後経済改革 戦時経済が破綻した背景、財閥解体・農地改革等の戦後経済改革の諸政策の意義について考える。</p>
	<p>【第20回】戦後復興期の経済政策 急激なインフレーションへの対応を迫られた政府が、どのような経済政策を打ち出していったかを学ぶ。</p>
	<p>【第21回】高度成長期の経済政策 高度成長期について概観した上で、高度成長期の経済政策について考える。</p>
	<p>【第22回】高度成長期の産業発展Ⅰ（鉄鋼業・機械工業） 日本の高度成長を主導した産業部門である、鉄鋼業・機械工業について学ぶ。</p>
	<p>【第23回】高度成長期の産業発展Ⅱ（石油化学工業・電子工業） 第二次世界大戦後に生産活動が本格化した産業部門である、石油化学工業・電子工業について学ぶ。</p>
	<p>【第24回】高度成長期における大衆消費社会の形成と環境問題の発生 スーパー・マーケットの登場に象徴される大衆消費社会の形成と、四大公害病を初めとする環境問題について考える。</p>
	<p>【第25回】高度成長期の終焉と安定成長期への移行 高度成長がなぜ終わったかを学んだ上で、輸出主導の相対的高成長を実現する一方、財政赤字が拡大した安定成長期について考える。</p>
	<p>【第26回】秋学期のまとめ 秋学期の授業内容に関するまとめを行った上で、秋学期の授業内容全般に関する質問を受け付ける。</p>
事前・事後学修	<p>事前学修：授業前に各回の資料(PDFファイル)をmanabaにアップロードする。ファイルをダウンロードして、授業の重要なポイントについて把握した上で出席すること。 事後学修：レジュメの要点を自分でまとめ直し、授業中に提示する練習問題を解きmanabaで提出すること。その上で、指定図書や各回のレジュメの参考文献リストに掲げる参考文献を読んで、日本経済史の先行研究への理解を深め、今後の研究課題について考えること。</p>
成績評価方法・基準	<p>①平常点30% 各回の授業(第13回及び第26回を除く)で提示する課題についての解答を、manabaで提出する(合計点を30点満点で換算して評価する)。 ②春学期末レポート25% 春学期の授業内容に関するレポート課題についての解答をWordファイルで作成し、manabaで提出する。 ③秋学期末試験45% 主に秋学期の授業内容に関して、学期末に試験を行う。試験形式は、授業で扱った重要な内容に関する説明問題と、特定のテーマに関する論述問題を予定している(変更する場合は事前に連絡する)。 ※授業の出席回数が3分の2以上ではない場合、評価の対象外とする。また、春学期末レポートの提出及び秋学期末試験の受験の両方を満たすことを、単位認定の必須条件とする。</p>
教科書・指定図書	<p>(教科書) 指定しない (指定図書) 杉山伸也『日本経済史』岩波書店、2012年。ISBN 9784000242820 武田晴人『日本経済史』有斐閣、2019年。ISBN 9784641165281 三和元・三和良一『概説日本経済史』[第4版]東京大学出版会、2021年。ISBN 9784130421539</p>
履修上の留意点	授業計画は変更になる可能性がある。変更の際は、レジュメやmanabaを通じて連絡する。授業中に適宜質問するので、積極的かつ真剣に参加する学生の履修を希望する。
更新日	2022/3/16